

## ■今月の特選句

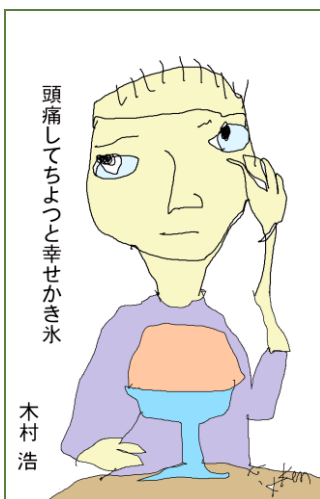
2021年9月



## ねえみんなプールの帰り何食べる

谷本 宴

思い出のワンシーンだろう。会話体が素材そのものだから、場の臨場感がダイレクトに伝わってくる。余分なものがない。足りないものもない。



## 頭痛してちよつと幸せかき氷

木村 浩

頭痛は不幸なはずなのに、浩君は「ちよつと幸せ」と言っている。この頭痛は、いわゆる「アイスクリーム頭痛」、だろうが、固定観念を破って斬新。



## ファッションや女もすててこはく時代

山田真佐子

男性の下着のすててこが、いつの間にか女性の軽快なお洒落着になって、街頭を闊歩するようになった。色柄もさまざま楽しい風景である。

■今月の特選句

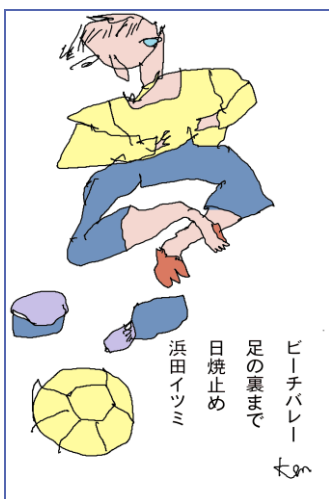
2021年9月



## 天文の学者気分で外寝かな

高田敏男

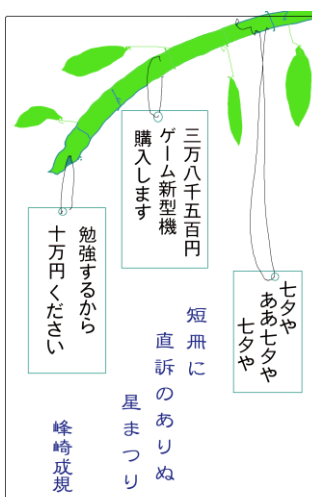
エアコンのない時代、寝苦しい夏の夜に縁側などの外で寝たりした。それが季語となった。満天の星々をつなげて図を描いていると学者の気分。



## ビーチバレー足の裏まで日焼止め

浜田イツミ

弾むようにプレーしているように見えるが、実は砂が灼けて熱いからかも。足の裏まで「日焼止め」というより、「火傷止め」と言うべきだろう。



## 短冊に直訴のありぬ星まつり

峰崎成規

星への願いを短冊に書く。その願いは星に届けられる前に保護者が一読し、検閲を受ける。その工程をうっかり外れた短冊が笹にひらひら。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

すててこが制服ステイホームでは ・・・制服は夜パジャマともなり	西をさむ
しゅわしゅわとソーダ水のやうな人 ・・・しゅわしゅわいつか皺皺となる	久我正明
わが影や酷暑に耐えてついて来し ・・・わたしについて来るは影だけ	吉川正紀子
梅雨明の畑の草よ撒かぬのに ・・・なんとか利用する手はないか	田中早苗
あれもこれも減塩汗がうすくなる ・・・人間力もうすくなりたる	大林和代
強がりやクーラー使わず健康と ・・・熱中症にならんやうにね	金城正則
どれにしようかワクチン接種の半袖は ・・・めくりやすさを何度も確め	山本 賜
初蟬のそうぞうしさがうれしくて ・・・褒めるからほら図に乗るんだよ	森岡香代子
ぶんぶんと分相応の蚊の力 ・・・多分そう蚊と思っていたが	藤森荘吉
犬だけど少し気になる猫じゃらし ・・・犬はじゃらししてもらえぬからに	八塚一青
青大将古式泳法なれば金 ・・・首だけ出して手足使わず	柳 紅生
すぐ折れる孫の手造りうちわかな ・・・あらら飾っておかなくちゃ	柳澤京子
翔平は投げて打つ我は蠅打つ ・・・蠅打ちダービーあれば挑戦	壽命秀次

## ■今月の滑稽句

\* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

虹二重山峡に雨残しつ	相原共良
銀河濃し地球引き寄せられてゆく	相原共良
白桃や薺に浸潤されてゐる	相原共良
炎天下流した汗知る洗濯機	青木輝子
定年後風呂めし禁句羽抜鶏	青木輝子
夏バテに期待してますダイエット	青木輝子
夫婦喧嘩の原因不明冷奴	赤瀬川至安
筋トレをやろうと今日も夕端居	赤瀬川至安
蜥蜴カップル叢に潜り込む	赤瀬川至安
唐突に唱(とな)ふ「トマトの糖度十(とを)」	荒井 類
禅寺の墓前にまろしひるの花	荒井 類
香港の蘋果(りんご)かじられ梅雨(つゆ)菌(きのこ)	荒井 類
冷房の百貨店へと化粧して	井口夏子
おかはりはペットボトルに山清水	井口夏子
背負ふもの捨てる勇気や蝸牛	井口夏子
一喜百憂メダルの数とコロナの数	池田亮二
熱帯夜一子相伝の寝相かな	池田亮二
竜宮も荒れて太郎はいとまごい	池田亮二
ラジオ体操またも中止の夏休	石塚柚彩
列をなす向日葵一本そつぽ向く	石塚柚彩
惜別の朝のあいさつ夏燕	石塚柚彩
物好きの走る炎昼ご勝手に	伊藤浩睦
バツハ嫌いテレビ断ちしいて夏休	伊藤浩睦
草取に熱中すれば熱中症	伊藤浩睦
戸を開けて明るき外界冷蔵庫	稲沢進一
向日葵の昼の眩き項垂(うなだ)れて	稲沢進一
星流るあなたは闇の世界かと	稲沢進一
帝国ホテルへ行った気分のお中元	稲葉純子
森中がかなかなかのクエスチョン	稲葉純子
ステージは大空演じるは雲の峰	稲葉純子
生身魂四十肩らし若返る	井野ひろみ
夫からの頼まるる些事蒸し暑く	井野ひろみ
高級車車庫にバイクで盆僧来る	井野ひろみ
星涼し疲れきったる己が身に	上山美穂
蝙蝠(こうもり)のお出かけパタパタといそいそと	上山美穂
熱々のラーメンクーラー効かせ食ぶ	上山美穂
猛暑とはうらはらにして月涼し	梅野光子
その声で沼を支配の牛蛙	梅野光子
胃の中につると落つる心太	梅野光子

夜長の灯遺影の髪黒ぐると  
 ドリアンを素手でひと口缶ビール  
 吉野には飯場の歴史紅葉山  
 あちこちに暑さをちらし鍵さがす  
 聞き返す話でもなし蝉時雨  
 空蟬の隊列飾り桜の木  
 ひさかたの話の花に鬼やんま  
 縁日の楽しみ何処夏の夜  
 レース後に高説を述ぶ文化の日  
 百八つ割り切り易き煩惱や  
 かき氷上部の圧力強くなる  
 多島美と石鎚山と伊予みかん  
 空蟬や儂き恋の古賀メロディ  
 悟り切るイエスの如く髪洗う  
 福耳に真っ赤なピアスさくらんぼ  
 老鶯の自然遺産を護りきる  
 若人よレモンスカッシュ弾け飛べ  
 ざらざらのTOKYO燃ゆる夏五輪  
 日焼けせし男に早桃売られけり  
 コンセントに繋がれている昼寝かな  
 匙投げる夏の静かな湖へ  
 行商にでてみようかと蟻地獄  
 鵜飼見て身につまさる亭主族  
 蝉声に一樹まるごと乗つ取られ  
 コロナ禍の五輪応援リモートで  
 海開き出来ぬ海の日カレンダー  
 株の張り目一杯にて稲の花  
 蠅を打つ命は大事と思ひつつ  
 九階のエレベーターに蚊を撒きぬ  
 端居して付かず離れず端と端  
 まっすぐに青天を衝く立葵  
 そっくりの手配写真やサングラス  
 一族のよく似た顔や盆の月  
 太陽に向けて日傘の芯立てる  
 子孫繁栄上向き横向き南瓜の花  
 旧姓ならわかる明るくって優しい方  
 ズッキーニ日本人が食しても柔らかい  
 コロナ禍にその日暮しや法師蟬  
 陶枕に頭あづける酒の酔ひ

遠藤真太郎  
 遠藤真太郎  
 遠藤真太郎  
 大林和代  
 大林和代  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 小笠原満喜恵  
 北熊紀生  
 北熊紀生  
 木村 浩  
 金城正則  
 金城正則  
 久我正明  
 久我正明  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 工藤泰子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 桑田愛子  
 小林英昭  
 小林英昭  
 小林英昭  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 佐野萬里子  
 壽命秀次  
 壽命秀次  
 白井道義  
 白井道義  
 白井道義  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 鈴木和枝  
 高田敏男  
 高田敏男

おでかけはワクチン接種夏休み  
 家族みな後期高齢生身魂  
 アマエビ様よろしくと子の絵日記に  
 夜這星外出ならぬ街をゆく  
 盗人萩開き直りて咲き誇る  
 秋麗や議員ら帰る下り坂  
 おっちゃんが各地区にいて夏祭  
 汗拭いて半裸の爺の菩薩めき  
 炎昼の資材置き場に迷い込む  
 半夏生遊び心に学びあり  
 座頭市一匹の蚊を斬り落とす  
 百合の花よせばいいのにプロポーズ  
 闘ふと言ふがびつたり梅雨の草  
 十薬と先端医療を使ひ分け  
 少しなら夏瘦したき二段腹  
 誰のためそこに咲くのか水中花  
 箱庭の橋の流失する夕立  
 青柿にそれぞれ所有権の札  
 歳時記に夏夕焼の季語がない  
 日盛に皮脂も意欲も焦がさるる  
 酷暑にも戦ひ挑むアスリート  
 夫につゆ取られ薄味冷索麺  
 起き抜けにじいじいじいと蝉の呼ぶ  
 暑気払ジベタリアンに咳払い  
 鬼灯や五輪を前に青くなり  
 逆転の一打に拍手して西瓜  
 ワクチンを打って卒寿の夏帽子  
 2DK襖はづして大の字に  
 梅雨明を宣言せよと蝉も急ぐ  
 産直のはね出し桃の旨さかな  
 蝉五匹小枝に群れて昼寝だよ  
 おとととと孫追ひかける墓参り  
 日傘からちらり横顔チャーミング  
 とりどりのサンダル並ぶ盆休み  
 太陽のコロナまみれの溽暑かな  
 インドより比丘尼到来仏桑華  
 もくもくと音立てて湧く雲の峰  
 梅雨明が遅れシュワシュワフライング  
 喉越しに口福実感ビアの泡

高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 高橋きのこ  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 竹下和宏  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 龍田珠美  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中 勇  
 田中早苗  
 田中早苗  
 谷本 宴  
 谷本 宴  
 田村米生  
 田村米生  
 田村米生  
 月城花風  
 月城花風  
 月城花風  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 土屋泰山  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 飛田正勝  
 長井知則  
 長井知則  
 長井知則  
 永易しのぶ  
 永易しのぶ  
 永易しのぶ  
 西をさむ  
 西をさむ  
 花岡直樹  
 花岡直樹  
 花岡直樹

火薬庫の真赤な鉄扉灼けにけり  
 蓋の欲し鉄扉の鍵穴灼けきつて  
 コロナの夏二進も三進(にっちもさっち)も利かぬ店  
 独り身とけろりと日傘差す老婆  
 蟬時雨寄らば大樹と天下とる  
 せせらぎのやうなおしやべり川床料理  
 海の家猫が堂々通り抜け  
 大谷の三十七号梅雨明ける  
 掌の中の胡桃からころなにか考える  
 マスクして目は口ほどにものを言ひ  
 金メダルコロナの闇を照らしたす  
 夏負の猫は三和土と一体化  
 超小型扇風機首に提げてをり  
 喉元を過ぎて胃袋冷やし酒  
 捕虫網コロナ虫でも集めるか  
 ほろ苦しオリンピックと生ビール  
 オリンピック部屋を涼しく胸熱く  
 秋風よ持ち去れ座席のぼつ印  
 秋旅の腕にワクチン済はんこ  
 蟬の声夜明け待てずにフライング  
 病みな加齢と呼ばれ秋に入る  
 重ね訊く妻の愚痴とて盆用意  
 張りつきし水着どう転ぼうが飛べぬ  
 虎ロープ張つて追ひ出す夏の雲  
 麦茶注げばばあちゃんの顔思ひだし  
 夏の朝二段ベッドの縁つかむ  
 待ちあぐむウインドサーファー風の海  
 花咲くや根もなき茎に水中花  
 ひぐらしや哀しき年を悲しませ  
 蟻地獄人の世は疫病地獄  
 ソーダ水返事待つ間の長きこと  
 蛇の衣決して人に見せぬやう  
 紙だけのせいとは言へず金魚掬ひ  
 オニヤンマ羽化は折紙ひろげてか  
 入道雲父の背なかのかたちして  
 パナマ帽祖父の威厳をとどめたる  
 閑人はこのゆびとまれ夕端居  
 まだ誰も見てない今年の赤蜻蛉

浜田イツミ  
 浜田イツミ  
 久松久子  
 久松久子  
 久松久子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 日根野聖子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 廣田弘子  
 藤森荘吉  
 藤森荘吉  
 細川岩男  
 細川岩男  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 南とんぼ  
 峰崎成規  
 峰崎成規  
 椋本望生  
 椋本望生  
 椋本望生  
 向田将央  
 向田将央  
 向田将央  
 村松道夫  
 村松道夫  
 村松道夫  
 百千草  
 百千草  
 百千草  
 森岡香代子  
 森岡香代子  
 八木 健  
 八木 健  
 八木 健

口中で刺身が跳ねる冷し酒

立秋と聞いて何人信じるか

コロナ禍の開き直りの大昼寝

ワクチンの注射の列に蚊遣香

一日中大朝顔を詠めぬまま

見えぬ目に小鳥三羽の飛来かな

沖漬けになるは知るまい鰯烏賊(するめいか)

軽トラの桃呼び止めて味見かな

きのうまで派手に鳴きしを油蟬

眠れぬ夜話し相手の墓

アリクイの夢を見るほど庭に蟻

プロテインしゃかしゃかしゃかしゃか夏の昼

夏の海戦うオープンウォーターの群れ

かじか笛温泉宿の懐かしき

幻はゆらゆら遠し蚊遣火

消し炭を記念の品に夏野営

漆黒の闇の体験夏野営

鍋底のお焦げ懐かし夏野営

1DKには無縁の世界夏座敷

向日葵色や東京五輪の金メダル

灯台に落ちてた眼鏡夏休み

投票所校舎を糸瓜の花登る

ジーチチチ充電切れか夜の蟬

炎昼の五輪放映だけ元気

お辞儀して水のおねだり夏野菜

味が良くなる人も胡瓜も揉まれれば

戦艦の影の黒黒夏の海

馬追虫や灯火親しむ長き髭

我死なば芥とならむ書を曝す

長生きに三分の利あり秋に入る

内職の背中伸ばせば青田風

プール当番どんぶりを掻き込んで

アンパンマンの窓の病棟晩夏光

鉢合せ身の竦みたる雨蛙

うやむやの夢を追ふうち明早し

初蟬を知らず夫の声青し

八塚一青

八塚一青

柳 紅生

柳 紅生

柳澤京子

柳澤京子

柳村光寛

柳村光寛

柳村光寛

山内 更

山内 更

山内 更

山岡純子

山岡純子

山岡純子

山下正純

山下正純

山下正純

山田真佐子

山田真佐子

山本 賜

山本 賜

横山洋子

横山洋子

横山洋子

吉川正紀子

吉川正紀子

吉原瑞雲

吉原瑞雲

吉原瑞雲

渡部美香

渡部美香

渡部美香

和田のり子

和田のり子

和田のり子